

平成28年度 宇治田原町教育・保育事業進捗状況の点検・評価シート

No. 1

事業名	1号認定（3歳以上 保育の必要性なし）
担当課	健康児童課
事業内容	3歳以上の保育の必要性のない児童を認定し、幼稚園・認定こども園等において、就学前の幼児教育を実施。
確保方策	町内私立幼稚園（1か所）定員150人、町外私立幼稚園、町外認定こども園

進捗状況（計画・実績値）及び評価

<計画・実績値>

実績は3月末現在の利用実人数

単位:人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	81	81	79	77	76
	確保の内容(B)	90	90	90	90	90
実績値	申請児童者数	新制度に移行した園				
	(実際のニーズ)	新制度に移行していない園	町内			
			町外			
	計(C)	97	87			
	実際の通園児童数(D)	97	87			
過不足(D)-(C)	0	0				

※確保の内容は町外・町内の私立幼稚園等の平成25年度の利用実績

<評価>

区分	H27	H28	H29	H30	H31
評価指標1	○	○			
評価指標2	×	△			

ただし、全て申請児童が通園できていることから、保護者のニーズは満たしている。

評価指標1：計画通りに進められているか。

評価指標2：保護者のニーズ量を満たしているか。

○・・・実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。

△・・・実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×・・・実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

自己評価

○平成28年度は、利用実績が量の見込み(81人)を上回っているが、確保の内容(90人)の範囲内である。
 ○特定教育施設に移行した町外の認定こども園(1号認定)の広域利用と、移行していない町内・町外の私立幼稚園において利用希望児童は全て受け入れられ、教育ニーズは確保された。
 ○町内の私立幼稚園で教育ニーズは全て確保できるものの、今後も近隣の私立幼稚園の利用希望が多いと見込まれるため、町内幼稚園の周知について、連携した取り組みを行う等、誘致した幼稚園の有効な活用を促進していく。

評価(意見)	今後の方向性
○町外園の利用者のニーズを把握し、町内園の運営に活かすことが必要。 ○量の見込みと実際のニーズが異なっている。	幼児教育を希望する保護者の、教育施設に求めるニーズの把握に努める。

平成28年度 宇治田原町教育・保育事業進捗状況の点検・評価シート

No. 2

事業名	2号認定（3歳以上保育の必要性あり）、3号認定（3歳未満保育の必要性あり）
担当課	健康児童課
事業内容	保育の必要性のある児童を認定し、保育を実施する。
確保方策	町立保育所（1か所）定員200人

進捗状況（計画・実績値）及び評価

2号認定・3号認定（保育希望）
 <計画・実績値> 4月1日時点

単位: 人

区分	H27		H28		H29		H30		H31		
	2号	3号	2号	3号	2号	3号	2号	3号	2号	3号	
計画値	量の見込み(A)	106	80	105	80	102	74	98	73	98	72
	確保の内容(B)	200		200		200		200		200	
実績値	申請児童数(C)	129	68	128	66						
	認定児童数(D)	129	68	128	66						
	過不足(D)-(C)	0	0	0	0						
利用率(A)		105.9%		104.9%							
利用率(B)		98.5%		97.0%							
評価	評価指標1	○		○							
	評価指標2	△		△							

※利用率(A)：量の見込みと認定児童数との比較((D)÷(A)×100%)

※利用率(B)：確保の内容と認定児童数との比較((D)÷(B)×100%)

評価指数1：計画通りに進められているか。

評価指数2：確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

○・・・実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。

△・・・実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×・・・実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

自己評価

○2号認定は量の見込みに対して申請数が多く、3号認定は量の見込みより申請数が少なかったが、全体として確保の内容となる想定員数を下回り、申請数を全て受け入れることができた。
 ○出生数は減少しているものの、母親の就労等により保育所の利用ニーズは依然として高い。育児休業から復帰する際のニーズは0歳、1歳に多いが年間予測が立てにくい中、部屋の割り振り等について毎年度の細やかな工夫が必要である。
 ○乳児クラスは児童数に対する職員の配置基準や面積基準が幼児クラスより厳しく、保護者の利用ニーズに対応するためには、保育室及び保育士の確保が課題である。

評価(意見)	今後の方向性
○2号認定について、見込みの見直しを検討が必要。 ○特に0、1歳児のニーズに対応できるよう工夫が必要。	年度途中での乳児クラスのニーズに対応できるよう、保育室の整備や保育士の確保に努め、今後も安全安心な保育を実施する。